

観点別学習状況の評価（A～C）の事例とその評価基準

1 学校の実情

対象は、普通科とほぼ同等の教育課程で学んでいる総合学科の文型の生徒である。落ち着いた状況で学習ができており、標準的な学力を有している。

2 その観点で行おうとした理由

本時で扱う内容は、ヒトの主な内分泌腺の名称や、ホルモンが作用する流れについてである。ヒトの内分泌腺は次時以降に扱う具体的なホルモン名を学習するに当たって必ず必要な知識となる。また、ホルモンが体液中に放出され、全身に流れ、そのホルモンと立体構造の一致する受容体に受け取られる流れは、生徒がイメージしやすい点であると考えられる。

そこで、生徒の知識をワークシートで確認することで、生徒の理解度を把握するとともに、確かな知識・技能を身に付けさせたいと考え、本時を「知識・技能」を評価する時間とした。

3 評価基準 【知識・技能】の評価

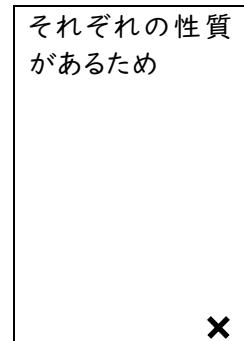
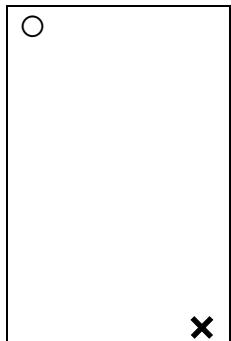
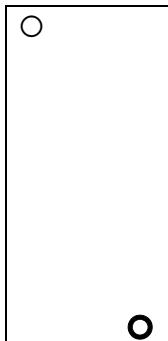
- A 問いの正誤を正確に把握し、誤りを正しく訂正できている。また、受容体とホルモンの特異性の関係についても適切に表現できている。
- B 問いの正誤の把握や誤りの訂正、受容体のホルモンに対する特異性について一部不十分なところがあるが、一定の理解が見られる。
- C 問いの正誤の把握や誤りの訂正ができておらず、知識の習得が不十分である。また、受容体のホルモンに対する特異性についても表現できていない。

※Cの場合は、本人がどの部分で理解できていないのかを対話などから把握し、理解が不十分な箇所の補足を行う。

4 生徒の評価事例

評価Aの例	(1)①	(1)②	(1)③	(2)	評価の理由
	○	全身に血管で運ばれ	いろいろな種類のホルモン	受容体には特定のホルモンと結合するため、それぞれのホルモンと同じ形をした受け取る部分があるから。	
評価Bの例	○	○	○	△	全ての問題に対し正しく答えられている。また、受容体とホルモンの特異性についても適切に記述できており、「十分満足できる状況」と判断できる。
	○	○	○	×	ある程度理解していると考えられるが、ホルモンが全身に運ばれることができていなかったり、ホルモンと受容体の特異性の関係が十分表現できていなかったりするため、「おおむね満足できる状況」と判断できる。

評
価
C
の
例



ホルモンが全身に運ばれることができていなかつたり、受容体の記述もあいまいでありますため、「努力を要する状況」と判断できる。